

(様式第1号)

平成28年5月25日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : ③リハビリテーションに関する領域

科 目 名 : ③-3 自立に向けた生活をするための支援の実践

単 位 数 : 2 単位

認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 公益社団法人長野県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒 380-0928

長野県長野市若里 7-1-7

電話 : 026-223-6670

FAX : 026-223-6679

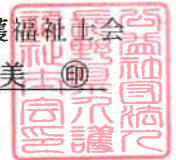
E-mail : sakai@kaigo-nagano.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : (公社) 長野県介護福祉士会

会長 畠山仁美

申請責任者 : 酒井 良育



記

○認定介護福祉士認定研修認証申請書 (別紙1～3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	自立に向けた生活をするための支援の実践	
(1) 提供する研修について		
研修名	認定介護福祉士養成研修	
教育目的	<ul style="list-style-type: none"> ・残された能力を使って、生活範囲と動作の拡大を図ることができるようにする ・変形・拘縮の予防などを理解し、生活の中で実施することができるようにする 	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等の日常生活動作全般に関する考え方や知識を習得し、支援に活用できる ・高齢者や障害者にとっての栄養を理解し、支援に活用できる ・利用者の疾患・障害等に応じた、更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等を支援する根拠を理解し、疾患・障害等に応じた適切な支援を選択・実践できる。 ・移動（移乗を含む）の意味や目的を理解し、利用者の状態に応じて適切な移動方法を選択・実践できる。 ・リハ職種との連携や介護チームの指導を行うために必要な知識・技術を身に付け、支援の根拠を言語化し、連携や指導ができる。 ・利用者の能力を活かす支援を考えることができる。 ・可能な限り利用者の社会参加の機会を作ることができる。 	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<p>○疾患別リハビリテーションの基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳神経系疾患 <p>①認知症（MCI、アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症等）</p> <p>②神経筋疾患（パーキンソン病、ギランバレー症候群等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、TIA等） ・高次脳機能障害 ・精神障害（統合失調症、気分障害、アルコール関連障害、等） ・循環器・呼吸器疾患 <p>①循環器・呼吸器疾患（虚血性心疾患・慢性閉塞性肺疾患・誤嚥性肺炎）</p> <p>②代謝性疾患（メタボリック症候群[高血圧・脂質異常症・糖尿病・肥満）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋骨格系疾患 <p>①骨関節疾患（変形性関節症、骨粗鬆症、関節リウマチ）</p>	<p>○事前課題①（4時間）</p> <p>認知症、脳血管障害、精神疾患、筋骨格系疾患の中から一つ選び、日常生活活動の問題点が明らかになるように、1,200字程度で経験した一症例の紹介を行う。（個人情報の扱いには十分注意を払うこと）</p> <p>この課題によって、症例を思い浮かべて具体的な介入方法の理解につなげる。</p> <p>○事前課題②（4時間）</p> <p>右上肢、下肢に重度の運動麻痺と感覚麻痺があり、立位・歩行困難の男性（60歳、身長175cm、体重80kg）をベッドから起こし、車椅子に移乗させたい。どのような点に注意すべきか800字程度で述べる。</p> <p>この課題によって、介護場面におけるリスク・マネジメントを想定して、講義につなげられるようにする。</p> <p>○疾患別リハビリテーションの基礎（6時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳神経系疾患 <p>①認知症（MCI、アルツハイマー型認知症、脳血管型認知症、レビー小体型認知症等）</p> <p>②神経筋疾患（パーキンソン病、ギランバレー症候群等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害（脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血、TIA等） ・高次脳機能障害 ・精神障害（統合失調症、気分障害、アルコール関

<p>②高齢者に多い骨折等（大腿骨頸部骨折・橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切断・脊髄損傷 ・知的障害 ・発達障害 ・その他の疾患：白内障、緑内障、老人性難聴 <p>○日常生活動作（ADL）指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等の日常生活動作全般についての知識 <p>○日常生活動作介助・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患・障害等について、疾患・障害の特徴をふまえた日常生活動作の支援を実施するための知識 <p>○シーティング・移動（移乗を含む）支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の心身機能で行える、確実・安全な移動方法の選択 ・獲得可能な移動方法の選択 ・各移動手段獲得 ・獲得すべき移動手段に必要な能力・機能の評価 <p>○リハ職種との連携や介護チームの指導を行うために必要な知識・技術</p>	<p>連障害、等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器・呼吸器疾患 <p>①循環器・呼吸器疾患（虚血性心疾患・慢性閉塞性肺疾患・誤嚥性肺炎）</p> <p>②代謝性疾患（メタボリック症候群〔高血圧・脂質異常症・糖尿病・肥満〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋骨格系疾患 <p>①骨関節疾患（変形性関節症、骨粗鬆症、関節リウマチ）</p> <p>②高齢者に多い骨折等（大腿骨頸部骨折・橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切断・脊髄損傷 ・知的障害 ・発達障害 ・その他の疾患：白内障、緑内障、老人性難聴 <p>【講義】</p> <p>上記の疾患において代表的なものをとりあげ、リハビリテーションの目的、具体的な介入について学ぶ。</p> <p>○日常生活動作（ADL）指導（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等の日常生活動作全般についての知識 <p>【講義】</p> <p>安全で効率の良い日常生活活動を理解し、各種疾患に応用できる知識を身につけ、必要なアセスメントができることを目標とする。</p> <p>○日常生活動作介助・支援（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疾患・障害等について、疾患・障害の特徴をふまえた日常生活動作の支援を実施するための知識 <p>【講義】</p> <p>利用者の疾患・障害に応じた日常生活活動を考慮し、適切な支援を行うための根拠となる知識を学ぶ。</p> <p>○シーティング・移動（移乗を含む）支援（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の心身機能で行える、確実・安全な移動方法の選択 ・獲得可能な移動方法の選択 ・各移動手段獲得 ・獲得すべき移動手段に必要な能力・機能の評価 <p>【講義・演習】</p> <p>人体の解剖学・運動学を基に、主に車椅子シーティングについて説明を加える。体重支持面から座位を考え、座位姿勢について学ぶ。</p> <p>○リハ職種との連携や介護チームの指導を行うために必要な知識・技術（4時間）</p> <p>【講義・演習】</p> <p>初めにリハ職種の視点からチームを考え、そこに介護</p>
--	--

③-3 自立に向けた生活をするための支援の実践

		の専門性において連携できることは何かを議論する。 また、ケース・スタディを通し、介護場面におけるリスク・マネジメントの視点を形成する。
研修方法	■ 集合研修 ■ 課題学習 ○集合研修講義と演習を組み合わせで行う。 ○課題学習は事前課題として、レポート課題を課す。評価は担当講師が行う。	
研修時間	30 時間（集合研修 22 時間、課題学習 8 時間）	
修了要件	○全課程の出席を要する。公共交通機関の影響、冠婚葬祭、担当する利用者の急変といったやむを得ない事情による遅刻、早退については合計 30 分（遅刻、早退それぞれ 15 分）を上限として認める。（レポート課題なし）30 分を超える遅刻、早退の場合、別途課されるレポート課題を提出すること。 ○修了評価として行う筆記試験（50 問程度）において、A～C 評価（100 点満点中 60 点以上）であること。D 評価（59 点以下）の場合は、再試験を行い、A～C 評価とならなければならない。なお、再試験は複数回の受験を可能とする。	
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 ・補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある者 	
(2) 受講者について		
受講対象（受講要件）	単位取得できるのは介護福祉士資格を有するものであること。 <ul style="list-style-type: none"> ・「認定介護福祉士概論」を修了していること。 ・「生活支援のための運動学」を修了していること。 ・「生活支援のためのリハビリテーションの知識・技術」を修了していること。 	
修了評価	筆記試験（50 問程度）により行い、100 点～80 点を A 評価、79 点～70 点を B 評価、69 点～60 点を C 評価、59 点以下を D 評価とする。A～C 評価（100 点満点中 60 点以上）で修了とする。	
(3) 研修の環境条件		
定員（講師の配置基準）	30 名（講師 1 名）演習時に 1 名のファシリテーター（介護福祉士）を配置する。	
開催場所（都道府県）	JA 長野県ビル（長野県長野市）	

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 平成 29 年 4 月
	②
	③
開催場所 (会場)	① 長野県長野市 JA 長野県ビル
	②
	③
(2) 講師	
担当、氏名及び略歴	担当する講義等 生活支援のための運動学 修了評価
	山本 良彦 氏 理学療法士 【職歴】 平成 2 年 信州大学医療技術短期大学部理学療法学科卒業 平成 2 年 リハビリテーションセンター鹿教湯病院 (介護福祉士 46 名、介護支援専門員 15 名、看護助手 57 名と働く) 平成 5 年 稲荷山医療福祉センター 平成 12 年 長野医療技術専門学校 平成 27 年 長野保健医療大学助教 【社会活動】 (公社) 日本理学療法士協会、代議員 (一社) 長野県理学療法士会、副会長・理事 聖徳大学大学院児童学研究科児童学専攻博士前期課程在籍 【著書】 「ダウン症リハビリテーションガイド」、診断と治療社、2013 「五十肩のリハビリテーションー病期に合わせた適切な運動療法ー」、診断と治療社、2015 【研修履歴】 平成 13 年 7 月 20 日、29 日 長峰学園リハビリ研修会 テーマ「施設でリハビリをどのように取り入れるか」 主催：長峰学園 (現、常岩の里ながみね) (飯山市) 平成 14 年 1 月 20 日 長峰学園リハビリ研修会 テーマ「日常生活の中でのリハビリテーション」 主催：長峰学園 (飯山市) 平成 14 年 5 月 19 日 長峰学園リハビリ研修会 テーマ「介護職員の腰痛」 主催：長峰学園 (飯山市)

	<p>平成 14 年 11 月 24 日 長峰学園リハビリ研修会 テーマ「入所者に対するストレッチ、筋力強化」 主催：長峰学園（飯山市）</p> <p>平成 15 年 9 月 20 日 看護・介護職のための呼吸勉強会 テーマ「呼吸理学療法」 主催：栗田病院（長野市）</p> <p>平成 17 年 1 月 18 日、2 月 15 日 ケアマネージャーの集い テーマ「呼吸器リハビリテーション」 主催：指定居宅介護支援事業所近藤鍼灸治療院</p> <p>平成 17 年 11 月 6 日 施設内研修会 テーマ「施設におけるリハビリテーション」 主催：特別養護老人ホーム長寿荘（長野市）</p> <p>平成 18 年 3 月 13 日、7 月 10 日 施設内講習会 テーマ「呼吸と嚥下について」 主催：特別養護老人ホーム松寿荘（長野市）</p> <p>平成 18 年 7 月 31 日 施設内研修会 テーマ「拘縮予防」 主催：特別養護老人ホーム杏寿荘（千曲市）</p>
	<p>担当する講義等 山本 良彦 氏（理学療法士） 履歴等は同上</p>
	<p>担当する講義等 「講義・演習」の演習に研修委員会委員（介護福祉士）</p>
(3) 実施体制	
<p>研修の企画運営の組織 （担当部局・人員）</p>	<p>研修委員会（非常勤：17 名） 事務局（担当事務局員、常勤：4 名） 研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、 担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。 また、できる限り研修委員会の委員が研修を見学し、研修内 容を評価するとともに、随時、研修の見直しを図る。</p>
<p>研修の企画運営に関する 諸規程</p>	<p>研修委員会設置要綱</p>
<p>研修管理責任者職名</p>	<p>副会長</p>
<p>研修管理責任者氏名</p>	<p>原千香子</p>
<p>機構問合先部署</p>	<p>長野県介護福祉士会事務局</p>
<p>機構問合先担当者氏名</p>	<p>酒井良育</p>
<p>機構問合先電話番号/FAX</p>	<p>026-223-6670 FAX 026-223-6679</p>
<p>機構問合先 e-mail アドレス</p>	<p>sakai@kaigo-nagano.jp</p>
<p>受講問合先部署</p>	<p>長野県介護福祉士会事務局</p>
<p>受講問合先担当者氏名</p>	<p>酒井良育</p>
<p>受講問合先電話番号/FAX</p>	<p>026-223-6670 FAX 026-223-6679</p>

③-3 自立に向けた生活をするための支援の実践

受講問合せ先 e-mailアドレス	sakai@kaigo-nagano.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	長野県介護福祉士会事務局
受講履歴の管理方法	<ul style="list-style-type: none"> ○紙媒体及びデータによる台帳管理 ○外付けディスクにバックアップデータを保管する。 ○データ保存期間は10年間とし、その後は外付けディスクにてデータを保管する。 ○個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。
受講履歴の証明	全課程を修了した者には、会長名による修了証書を発行する。
管理責任者氏名	土屋一都(事務局長)
管理担当者氏名	酒井良育(担当の常勤職員)